

## 非ステロイド抗炎症薬と抗凝固薬の併用で 静脈血栓塞栓症患者の出血リスクが倍増

心房細動患者において抗凝固薬とアスピリンの併用が出血リスクの上昇に関連することが報告されているが、抗凝固薬と非ステロイド抗炎症薬の併用についての報告は少ない。そこで本研究では、抗凝固薬（リバロキサバンまたはエノキサパリン+ビタミンK拮抗薬）と非ステロイド抗炎症薬またはアスピリンの併用による出血リスクの上昇について検討した。

静脈血栓塞栓症の患者 8,246 人を対象に非ステロイド抗炎症薬またはアスピリン使用期間における出血性イベントの割合を非使用期間と比較した。非ステロイド抗炎症薬の使用者は 1,884 人（22.8%）、アスピリンの使用者は 1,202 人（14.6%）であった。非ステロイド抗炎症薬と抗凝固薬の併用時の重大な出血性イベントの割合は、抗凝固薬のみ使用の場合と比べて 1.77 倍多く、有意に増加した。また、大出血イベントの割合は非ステロイド抗炎症薬の併用時は非併用時と比べて 2.37 倍と有意に増加した。アスピリン併用時は非併用時と比べて、重大な出血性イベントの割合は 1.70 倍、大出血イベントの割合は 1.50 倍と増加した。いずれの評価項目においても、リバロキサバン群とエノキサパリン+ビタミンK拮抗薬群で出血リスクに有意な差はみられなかった。

今回の検討から、静脈血栓塞栓症患者に対する抗凝固薬と非ステロイド抗炎症薬やアスピリンの併用で、臨床的に重大な出血や大出血のリスクが増加することが確認された。

出典：Journal of American Medical Association. Internal Medicine. 2014; 174(6):

947-953